

10月1日(日)



約50キロキハダまぐろ
スタッフの長崎くんと
大きさがほぼ一緒です。



1パック

680(税込)円

まぐろ漬け丼

50キロの愛媛県産天然キハダまぐろ

まだまだ暑い日が続いてますが、朝晩はようやく涼しくなり秋を感じるようになってきましたね！秋からが美味しくなる魚達、今週もギリギリ迄広告何にしようか？美味しい魚を皆様の食卓へ届けられるだろうか？考えながら市場に行くところ…すぐに声をかけて来て下さる業者さんが、「祐宗さん、面白いものがあるよ、予定数量より多く積んで来てから〜」こういう事は市場あるあるでして(笑)。
「全部下さい〜」と笑。
さあ〜からが大変です！売り方を全く考えてなくて…いつも現場は慌ただしくなります。これも活気ですよね〜と満足する私。
今日はそのキハダまぐろで漬け丼にします！酒と味噌を火にかけてアルコールを飛ばし、醤油で味を整え、漬け時間は5分！これにお好みで卵黄や山芋をかけてもよし、そのままでもよし！さ〜と漬けたマグロは絶品！！
他にも刺身も販売致します。なんせ5本も有るので約250キロも…(笑)。価格は800円？いやいやも1000円ダウンの680円税込。かなりお買い得です！さあいっしょにいっしょいっしょ〜。

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司



西田鮮魚店

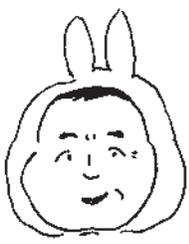
72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『わが心の秋祭り 西原八幡神社 秋季例大祭のジオラマから』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



今年もジョイフルの正面玄関に、昭和を描いたジオラマがデンと座っている。私の中学時代の恩師、八谷勇男先生が一年をかけ精魂こめて作られたジオラマだ。

あのころは、下森先生と呼んでいた。大学を出たばかりの熱血スポコン先生。昼休み、いっしょにワンバンノーバンに興じた。

2年前、先生が作られたジオラマを、ジョイフルに展示していたときに、何十年ぶりかでお会いした。あの下森先生が…と驚いた。そして、先生が若者2人と一緒に運ばれてきた大きなジオラマを見て息を呑んだ。昭和という時代の農村の息づかいが伝わってきたのだ。胸がキュンとした。やっぱり先生は熱い。

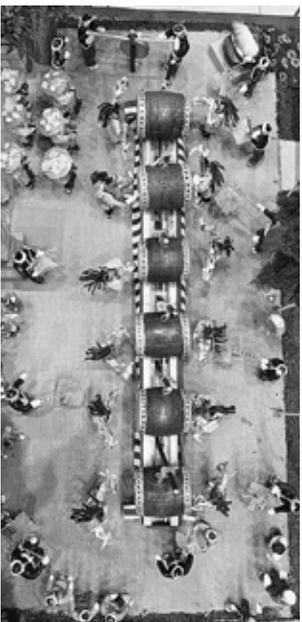
今年のジオラマのテーマは『西原八幡神社 秋季例大祭情景』。板橋にある西原八幡神社。建物は室町時代の様式を残しているとかで庄原市の重要文化財。そして、ここで舞われる舞いは無形民俗文化財に指定されている。その秋祭りの様子が再現されている。

参道入り口の鳥居・拜殿・本殿・末社が精巧に並ぶ。手水舎、狛犬。ネットで写真を見た。そのままだ。すごいなあ、八谷先生。

圧巻は境内に、ずらりと並ぶ6台の大太鼓と鉦。そして武者に似せた兜をかたどった飾りをつけ、太鼓を舞い打ちする子供たち。音が聞こえてきそう。 (実際、聞こえます。テープで流していますから 笑) 花笠をかぶった子供たち、法被姿の大人たちも。天狗や獅子舞も見える。

その上手に紅白のメ縄で飾られた神輿。もちろん神主さんの姿も。見物客もいる。たこやきの露店も出ている。芸が細かい。つい笑顔に…。

子供を連れて見に来てほしい。孫に見せてあげてほしい。昔の祭りの話をしてほしい。そして、チロルでフライドポテトを買ってあげてほしい。よろしくお願いします。



ジオラマを見ている私の頭の中は、60年前にタイムスリップ。 丑寅神社の祭りが甦る。

あのころ、10月ともなれば秋の色も濃くなり、朝晩は冷気に包まれた。我が家では、丑寅さんの祭りの日、10月10日が炬燵を出す日と決まっていた。

家々の軒先には、紐が張られ白い紙垂が下げられる。町に祭りの始まりの予感が広がった。

学校が終わり、小走りですり抜け、丑寅さんを目指す。気が急いだ。

入口の鳥居のまわりに屋台が並ぶ。露店で『カミカン鉄砲』を買う。丸く巻かれた『カミカン』を装着。パンパンと鳴らしてみる。火薬の臭いが刺激的だった。

次は『ばくだん』だ。ひょうたんのような形をしたゴムの袋に入っているアイスクャンデー?。吸い口を縛っている輪ゴムを外して吸う。時々、ふくらんだところが破れて氷が顔

をのぞかせた。食べ終わると、中に水を入れてパンパンにし、投げつけて破裂させる。それで『ばくだん』?。祭りには欠かせない一品だった。

祭りの必須アイテムを手にして、長い石段を駆け上る。

境内には白や紺の長い幟を手にした少し年配の大人たちが、たばこを吸いながら話している。その端に神輿が2台。白いはちまきをし、白装束とわらじで身をかためた、こちらは若い大人が腰をおろして出番を待っている。始まる前の、このざわざわが好きだった。

行列が動き始める。太鼓に鉦、横笛。馬もいる。たくさんのお幟が続く。神輿が暴れる。獅子舞が踊る。そして、天狗。天狗が祭りの花形だった。

白装束に天狗の面をつけ、小学生の私たちを追いまわす。捕まりでもしようものなら、抱え上げられ振り回される。必死で逃げる。それでもカミカン鉄砲を天狗に向かって撃ち、天狗を挑発する。天狗も負けてはいない。捕まる子もいる。自分でなくてホッとす。でも、捕まった子がうらやましいような、そんな気がしたものだ。天狗は2人いた。おとなしめの天狗と暴れん坊の天狗。もちろん、人気があったのは暴れん坊。みんなで囃したてた。

三日市の御旅所まで。 まだ道幅が狭く車も少ない本町だった。

20代のころ、当前で神輿があたった。若い私は担ぎ手になった。すこし嫌だった。大人になった私は祭りが苦手なの

当日、白装束に身を包み丑寅さんに立った。その気になった。「よっしゃ、やってやろうじゃないか」。担いだ。重い。思ったよりはるかに重い。「おいおい、最後までいけるか?」ちょっと不安になった。おまけに、私だけ肩の位置が高い。すこし屈んでみるが出ない。「ええい、やけくそじゃ」。背を伸ばす。町に出た。やっぱり重い。肩にくいこむ。くじけそうになった私を支えたのは、酒だ。そここで、呑め呑めとコップ酒をふるまわれる。呑んでは歩く。さすがに酔う。酔った男は強い。『火事場のくそ力』というが、『酔いたんぼのくそ力』も負けてはいない。ちゃんと御旅所に着いた。

そして、このとき初めて知ったのだが、神輿は、むやみに暴れているわけではない。そのお家の前で、よいしょ、よいしょと神輿を上げ下げするが、そのとき、「お花代」をいただける。神輿は2台。「お花代」は、その神輿のものになる。もちろん全部ではないのだが。そもそも、もらえるものとは思っていなかった。ボランティアだとばかり。

私たちは張りきった。相手より先に歩いた。普通の家よりお店の方が「お花代」が出る。途中、コースが別れるのだが、店が多い方を選んだ。

私たちの方が多かった。来華園で祝杯をあげた。疲労と達成感でうまかった。盛り上がった。翌日、体がムチャクチャ痛かった。関節も筋肉も。いまだに、あの時を越えることはない。

教訓。祭りは見るより参加する方が100倍楽しい。

『西原八幡神社 秋季例大祭情景』が私の記憶を呼び起こしてくれた。

2023年10月1日